

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆GW予算、前年比5%増の平均2万9237円 民間調査

・調査会社のインテージは17日、2025年のゴールデンウィークに関する調査結果を発表。GWの予算総額は平均2万9237円と前年比5%増。予算増の理由として半数以上が「物価高・円安」を挙げ、「自宅で過ごす」が37.3%と最も多く、経済的な負担の増加による「巣ごもり」傾向が強まっていると分析した。

◆1～3月の訪日客、四半期で初の1000万人超 米関税が影

・訪日外国人客が1～3月に四半期として初めて1000万人を超えた。中国人客の回復がけん引した。消費額は前の四半期からわずかに減ったものの、高水準にある。先行きの懸念材料はトランプ米政権による関税政策で、世界経済が減速すれば、日本経済を支える訪日客消費も冷え込む恐れがある。

◆貿易赤字4年連続、24年度15%減の5兆2216億円

・財務省が発表した2024年度の貿易統計速報によると、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は5兆2216億円の赤字。4年連続の赤字となった。歴史的な円安を背景に輸出額が伸び、赤字幅は前年度比で15%縮小。輸出額は前年度比5.9%増の108兆9345億円。2年連続で100兆円を超えて、比較可能な1979年度以降で過去最高となった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆民間工事の代金支払い、引き渡し後が4割 業界団体調査

・民間発注者が建設会社に工事代金を支払う時期について、建設業界が遅さを問題視。業界団体が建設会社に代金の支払時期を聞き取ったところ、全体の約4割が物件引き渡し後だった。建設会社が工事費用を借り入れ工面の場合、支払時期が遅れば金利負担が増す。業界団体は国土交通省に対応策を求めている。日建連がまとめた。

◆中小オフィスビル、都心で5割増 スタートアップ集まる

・東京都心で内装や機能性にこだわった「コンパクトオフィスビル」が増加。都心15区で2022～24年に新規供給された中小型ビルのオフィス面積は19～21年に比べて5割増。資材高や人手不足で大規模ビルの工期が見通しづらくなると、短期間で集客して投資コストを回収できる新たな収益源に育てる狙い。

◆建設工事受注高、2月は8.1%増 11カ月連続で増加

・国土交通省が公表した「建設工事受注動態統計調査」(2025年2月分)によると、2月の受注高は前年同月比8.1%増の9兆2695億円となり、11カ月連続で増加。元請受注高は6兆314億円と同6.0%の増加。下請受注高は3兆2381億円と同12.4%増加。業種別では、「設備工事業」が2兆2877億円(同0.8%増)で6カ月連続の増加。

《 注目商品 》

■LIXIL、最適・最小化した新概念「ULキッチン」

・”次世代のウルトラライトキッチン”「ULキッチン」を発売。キッチンには収納量や機能性よりもデザイン性を求めるミニマル思考が増えつつあることを踏まえ、キッチンを構成する「デザイン」「セレクト」「スペック」の3要素を見直して最適・最小化。



■ウッドワン、国産ヒノキの無垢フローリング

・国産の桧材を使った無垢フローリング「コンビット ソリッドJ」を発売。桧と樺の国産材化粧単板を使った突板フローリング「コンビット グラードJ」国産材シリーズにラインアップ。「無節・上小節・節あり」の3グレード、「クリアホワイト色・無塗装」の2タイプ。



■LIXIL、INAXライブミュージアムに「トイレの文化館」オープン

・土とやきものの魅力を伝える文化施設「INAXライブミュージアム」は、日本のトイレ文化を発信する展示館「トイレの文化館」を2025年4月17日(木)から一般公開。木製便器の時代から、現代のトイレに至る日本のトイレの歩みを、約50点の実物と豊富な資料でたどる。

